

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年11月29日(火)

### 《愛にあふれる生き方 ～自分のせいにしましょう～》

皆様は、自分を愛の多い人間だと思いますか。それともあまり愛がない人間だと思いますか。

愛が多いと思う人は、本当に愛が多いのか、振り返ってみてください。愛あふれる自分のために、傷を受けている人はいないでしょうか。もし、傷を受ける人がたくさんいれば、「私は愛が多い」とは言わないようにしてください。逆に、「私には愛はありません」という人は、自分によって慰められた人、励まされた人がいないか考えてみてください。結構いると思えば、その人の心には愛があるということになるでしょう。

今日の福音(ルカ 10・21 - 24)の始めのところには、「イエス様が喜びにあふれて・・・」と書かれています。愛を求める心があって、「愛の内に生きたい」、「愛の中で生きるのが嬉しい」と思っている人の特徴は、関わりが上手なことです。関わりが苦手でも、「本当に愛に生きたい」という気持があれば、どんな難しい関わりにもぶつかって行きます。そして、率直に本音を見せます。

イエス様が喜んだのは、100パーセント愛のためでしょう。愛を感じられたことに喜ばれたのでしょう。

愛の特徴は、見えないことが見え、聞こえないことが聞こえることです。もし皆様の心にしっかりとした愛があれば、誰からも嫌われている人の孤独感や傷が見えます。しかし、「私には愛がたくさんあります」と言いながら、大嫌いな人から逃げようとしていたら、もう一度やりなおさなければいけません。

イエス様は、「全てのことが備えられても愛がなければ意味がない」とはっきりおっしゃっています。知識がたくさんあっても、他の国の言葉が話せても、どんな能力があっても、愛がなければ意味はないのです。

私たちが福音的な生活をする時、宣教をする時、福祉の仕事をする時、その中心に『愛』が刻まれていなければ、利己的な考えに基づいている可能性が高いのです。

だから、いつも警戒しなければいけません。善いことを行う時には、なぜそれをするのか考えてください。本当にイエス様のためなのか、困っている人のためなのか、それとも自分の満足のためなのか、人の顔を立てるためなのか、振り返ってみてください。

イエス様は、喜びにあふれて、「これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者に見せてくださいました。これはあなたのみ旨にかなうことでした。だから、喜びを感じます。」とおっしゃっています。イエス様は、御父が自分の考えてきた御父と全く同じであることをもう一度確認して、本当に嬉しかったのです。

『幼子のような人』に見られる特徴は、『愛』です。ですから、何よりも愛を求めてください。人間は、いくら頑張っても愛にあふれる人生は過ごせません。いくら愛を叫んでも、わがままになります。どんな努力をしても人間はわがままです。だからこそ、自分の中が少しでも愛で満たされるように努

力しなければなりません。具体的に表さなければいけません。

だますことが癖になっている人ならば、だますことを止めてください。悪口を言うのが癖ならば、それを止めてください。人に文句を言うタイプならば、それを止めようと頑張ってください。そういう努力がなければ、私たちはいつも同じ所に留まって進みません。そういう人生ならば、悲しい人生になると思います。

イエス様が叫んだ唯一の言葉は『愛』です。それなのに、私たちは憎み合い、赦さないと叫んでいます。私たちが正しい生き方をするためのただ一つの方法は、「自分のせいにすること」です。自分のせいにしなければ、絶対に自分を救うことはできません。それを今日の福音を通して覚えましょう。

ありがとうございました。